

「Z-GIS」最新情報

露地野菜・GAPで活用できる 営農管理システム「Z-GIS」

先進的な営農管理を求める農業者から注目を集めている「Z-GIS」。全農では、全国各地で研修会や説明会を開催し、参加者から「こんな使い方できないか」などの相談を受けています。なかでも「露地野菜で使用できないか」との質問が多く出されています。そこで今回は、露地野菜・GAPで「Z-GIS」を活用している千葉県JA市原市の姉崎蔬菜組合の事例を紹介します。

JGAPの団体認証を畑作物で取得

J A市原市姉崎地区では、組合員15名で「姉崎ダイコン」を年間150万ケース生産しています。専用の洗浄選別施設を持ち、出荷時期は10~5月、100%系統販売です。

J A市原市経済部の地引さんが担当する「姉崎蔬菜組合」は、生産者の意識向上と安全・安心な商品を提供するために、JGAPの団体認証をめざしました。畑作の団体認証は稀で、苦労も多くありましたが、令和2年1月に認証を受けることができました。組合員15名のGAPに対する意識は高く、GAPのマニュアルに沿った管理を個々の農家が行っています。農家の倉庫には機材や資材の表示が貼られ、労働力支援を受け入れているベトナム人労働者が読めるようにベトナム語表記をするなど、適正な管理に努めています。

地引さんは、「Z-GIS」を活用し、GAP管理のため、組合員の圃場情報を入力しました。農水省の提供するデータを全農本所が加工した、筆ポリゴン（農地の区画情報）を使用し「Z-GIS」に反映しています。秋冬作、春作で圃場が移動するため、耕作圃場一覧表を組合員に提出してもらい管理しています。栽培圃場が変更になった場合は、その都度、耕作圃場一覧表の内容を変更しています。現在は、圃場の場所と所有者、播種日、品種などを中心に管理しています。洗浄選別施設でも入荷管理に「Z-GIS」を活用しています。今後は、投入肥料や生育予測・出荷日予測などを加え、集出荷のスムーズな運営に役立てたいとのことです。

J A市原市は、今後も「Z-GIS」を活用し、なしなどの果樹や、米、その他の露地野菜に管理を広げていく予定です。

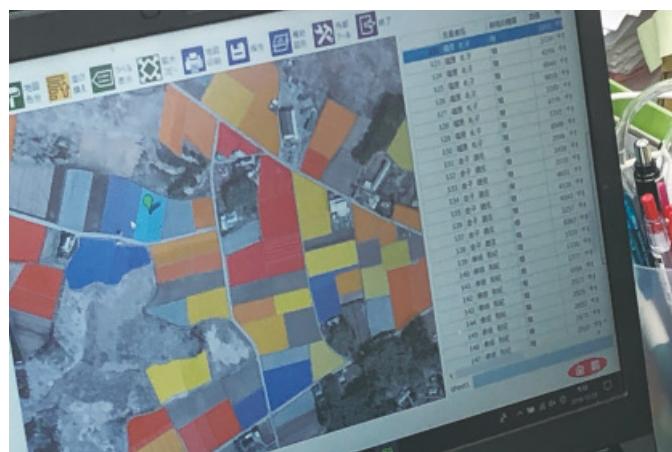
●「Z-GIS」に関する問い合わせ先

全農 耕種総合対策部 スマート農業推進室 ☎03-6271-8274
zz_zk_smart@zennoh.or.jp

【全農 耕種総合対策部 スマート農業推進室】



▲地引さんの「Z-GIS」管理はPCを中心



▲組合員15名分の圃場を「Z-GIS」で管理



▲洗浄選別施設において箱詰めされ出荷を待つ大いん